

## 2017 Japan National Team Report ” 国代表”



報告者氏名	鷺尾 玲子
大会名	アジア・オセアニア選手権大会
開催地	香港 Royal Hong Kong Yacht Club
大会期間	9月30日～10月7日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
  1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
  2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
  3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
  1. このレポートを補足する資料として必要です（文中に貼り付けて下さい）
  2. 他国OP艇を接近して撮影する際は、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

開催地域の様子	<p>・RHKYCは香港島の北にあるメインのKellett Island, 南にあるMiddle Island, そして Shelter Cove の3つのクラブハウスがあり、開会式は Kellett Island, レース・計測・夕食・閉会式は Middle Island で行われた。</p> <p>・Middle Island は小さな島で宿泊場所からバスで15~20分、渡し舟乗り場まで徒歩10~15分、渡し舟で2~3分の所にあり、クラブ会員のみなので、セキュリティ、設備はとも良かった。（シャワールームにはシャンプー、石鹸、バスタオルが完備、鍵付きのロッカー、脱水機の使用）</p> <p>・気温は朝晩28~30℃ぐらい、日中は30~34℃、湿度がとても高く、一日中80~90%、スコールもあった。</p>
宿泊場所	<p>・大会公式ホテルは庶民的な街にあり、地下鉄駅から徒歩10分程度に位置し、途中から帯同のサポーターも合流しやすい場所にあった。</p> <p>・サポーターも含み、チーム全員が同じホテルに滞在でき、他のすべての国も同様だった。</p> <p>・朝食はビュッフェスタイルだったが、毎日同じ内容のものを飽きないよう上手に、且つ、レース前の食事に適したものを選ぶのが選手全員あまり上手ではなかった気がする。</p> <p>・毎日のベトナムメーキングは助かった。</p> <p>・ホテルから Middle Island への往復は大会側で手配済みの大型バス3台が参加国の選手全員と役員を渡し舟乗り場近くまで送迎。朝、他の国も揃っての出発だったので、早くハーバーに着きたい国はタクシーを利用していただけだった。当初、帰りのバスが少々遅めの20:00だったため、途中から早める対応を取ってくれた。</p> <p>・初日と最終日、バス乗り降り場と渡し舟乗り場間を、暑い中、ポイド管や、スパー、フォイルを持っての徒歩は選手達には大変だったと思う。</p>

<p>大会の対応は</p>	<p>[ 大会全般 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NOR と SI の他に Welcome Pack という細やかなスケジュール、出艇・着岸方法、食事について、移動手段について等の資料を事前に送って下さり、とても参考になった。</li> <li>・ 初日、とてもフレンドリーで気さくに、且つ、丁寧を受け入れて頂き、緊張がほぐれた。</li> <li>・ チャーター艇はすでに各国のバースに配置されており、スパー、フォイルを受け取り、セールと共に計測という流れだった。</li> <li>・ ラダーの計測でエクステンションが 1cm 長いという事で切って穴を開けるため RHKYC の工具を使わせて頂いた。</li> <li>・ アップバックに穴が空いていた場合やエクステンションが切れた場合は、FarEast がすぐに交換はしてくれました。</li> <li>・ 臨時ショップは出店していたが、予備のロープ類やパーツ類はなかった。</li> <li>・ 横幅が OP 3 艇分しかないスロープからの徹底した出艇方法は素晴らしいです。132 艇を 20 分足らずで出艇させた。</li> </ul> <p>(各国毎に出艇、公平性があるよう毎日順番が変わり、叫ばれるまでバースから出てはならない、叫ばれるまでにはチーム全員が準備できている事、ルールを守らなかった場合は最後になる。選手たちはスロープの両端から OP を浮かべ、ボランティアの大人が OP を抑え、選手はラダー、センターを速やかにセットし、トローリーはスロープの真ん中からボランティアの大人が引き上げて行く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選手たちの様子を見て、時間変更などの大会側の柔軟な対応は良かった。</li> </ul> <p>[ 食事 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハーバーでの夕食がビュッフェスタイルで毎日変化のないパスタメイン with フライドポテトのようなメニューで、たんぱく質がほとんど取れなかった。長蛇の列ができて、量も少なく、他国のコーチが大会側に改善の交渉していた。日本チームは持って行った食材で補い、クラブハウスで食事もした。</li> <li>・ 水はペットボトルではなく、出艇前に大きいタンクの水から参加賞の水筒に自分で入れる方法だった。海上ではそれぞれのコーチボートまたは Safety Boat にタンクの水が積まれていた。</li> </ul>
<p>選手たちの コンディションは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到着した日は暑さなのか、緊張なのか、疲れなのか、マイペースなのか、実感がわからないのか、元気がないように感じられたが、徐々に活気が出、レース初戦は皆元気に出て行った。</li> <li>・ ホテル内の温度と外の気温の差が大きく、体調を崩しやすい状況で、風邪気味の選手が出たり、蕁麻疹のような発疹が出た選手もいたが、大きく体調を悪くした選手はおらず、全員すべてのレースに出場できた。</li> </ul>
<p>役員として気がつけた ことは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大会側の方々、ボランティアの方々とよくコミュニケーションを取り、情報不足にならないように、また、解釈が誤っていないか確認を頻りにした。</li> <li>・ コーチ・監督・サポーターがコミュニケーションを取れているか。</li> <li>・ 選手たちの食事、健康状態。</li> </ul>
<p>海外の選手を見て感じた ことは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よく言われていますが、やはりメンタル面が強く、リラックスしている状態から集中してレースに臨む際の切り替えが素早くはっきりしていた。</li> </ul>
<p>日本の選手を見て感じた ことは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外選手とコミュニケーションが意外と積極的に取れる。</li> </ul>

Spare day の過ごし方は？	公式日はSpare day はなかった。
日本チームとしての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタル面で自分がどういう状態でレースに臨んでいるのか（緊張しているのか、集中できているのか、冷静且つ積極的なのか）把握して、修正しないとイケない場合はどうしたらいいのかわからないままにならないように、意識をする。</li> <li>・練習量が少ない。</li> <li>・いいスタートを切る。（メンタル面でも技術的にも）</li> </ul>
JODAへの要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に3月選考会開催の場合、5月にNT合宿での様々なトレーニングでは十分に課題を見つけ、修正して各大会に臨むには期間が短く、少ないと感じた。</li> <li>全日本選手権後に選考会出場者にトレーニングの機会を作っては？</li> <li>・OPの普及、レベルアップには選手により良い練習環境や、多くの経費ができるよう、行政やスポンサーの援助をして頂ける活動は今後大切だと思う。</li> </ul>
その他	<p>国代表 Meeting が下記の内容で行われた。</p> <p>Agenda</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Report from IODAVP</li> <li>-Venue for 2018 OAOC-Myanmar</li> <li>-Venue for 2019 OAOC-OMAN</li> <li>-Venue for 2020-Suggestions</li> <li>-Proposals for Development of Optimist in Asia/Oceania</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア・オセアニアで更にOPの普及、レベル向上をさせたい。</li> <li>・2020開催地として韓国とオーストラリアが意思表示をした。</li> <li>・IODAよりUSD10,000の予算で、Coaching Clinicの提案。 10ヶ国 / 1コーチずつ / 3~4日 / 開催地未定 / 時期2018年3月まで</li> </ul>
	JODAの皆様をはじめ、この機会を与えて下さり、支えて下さった皆様ありがとうございました。とても貴重な経験となり、今後繋がっていかれたらと思います。

ご協力ありがとうございました

JODA海外派遣委員会